ハローワークという聞きなれない名前の中で 立ちつくしていた たくさんの人が画面に張り付き 窓口で喋っていた 座るところがない

広い公園ではベビーカーが停車していて よたよたと幼児が歩き回っていた 読書する人や、うたた寝する人 それに語り合う人々 座るには居心地が悪い

寝床のある家に着いてドアを開くと 淀んだ視線が三方向から、一瞬だけ届いた いつもと何も変わらない微笑の風景の中に いたたまれぬ霧が重たく立ち込めている ここは既に帰る場所ではない

朝早くから何時間も待ち続けている患者たちに 大病院の待合室はびっしりと埋め尽くされている 私は自分がどうしてここに居るのかを知っている それはたぶん薬を得るためばかりではない、と ここも満席

新聞の世論調査結果に割り込む余地はなく 誘導したい結論に導かれているだけ そんなものに何の興味があるものか 事実という名のガラクタに埋もれて イメージまでが満席だ 癒し、支え、つながり・・・ 求めよ、さらば与えられん 誰が神を殺してしまったのか 誰が神になり代わったのか 今や憧憬の居場所さえ皆無である

あてもなく歩き回り 肉体ではなく 掴む手すりを見つけることのできない不安が――― ひどく疲れる どこも満席

座る場所がない 社会全体が満席なので

(2011.9.4)